第１編　中央区の沿革と地勢・人口

中央区の沿革

中央区は、昭和22年（1947年）３月15日、日本橋区と京橋区の地を合わせ、新しく成立した。区名にうたわれているように、東京の中心にその位置を占めているが、その地域は両国橋下流の隅田川右岸に沿って帯状に広がりを見せる日本橋・京橋方面、隅田川河口近くに位置する佃ならびに明治以降の埋築に係る月島、さらにそれに続く晴海などから成っている。

康正２年（1456年）、太田道灌が江戸氏居館の地に江戸城を築いたころ、江戸の地はまだ自然のままの地形を多く残していて、城下には日比谷入江が和田倉付近まで深く入り込み、今の九段下および神田駿河台下から神田の大部分、そして、丸の内辺りは陸地や沼地が続いていた。江戸宿は、城下の平川口から大手町を中心として、ささやかな茅屋が立ち並んでいたに過ぎなかったが、このころから、現在の常盤橋の辺りに遠く房総方面から商船・漁船が従来し、市なども立って活気に溢れた宿となり、かくして後の江戸の基盤が、この道灌の時代に築かれた。

このころ、本区がどのくらいの面積があったかは史上明らかではない。日本橋の北方室町辺りから馬喰町・横山町方面にかけて、街道町や農村が開かれていたことは疑いないが、いつごろからかは、はっきり記録されていない。

道灌没後、約100年間北条氏の治政下の時は、区の歴史にとってさして見るべきものがないが、天正18年（1590年）徳川家康が江戸を居城と定め、城下町の建設に着手した時、本区の一部である本町辺りの町割りが行われて新しい街が出現した。

家康が天下を平定し、江戸が天下の都市となるに及んで土地は不足を来した。そこで幕府は、慶長８年（1603年）に有名な豊島洲崎の大規模な埋め立て工事を起こし、神田山を取り崩して土を取り、海岸を埋め立てた。こうして、蛎殻町辺りや日本橋南から新橋辺りに至る表通りが造築され、ここに江戸城下町の商業地帯としての本区が誕生した。

年　代	出　来　事
天正18年	（1590年）　徳川家康、江戸を居城と定め城下町の建設に着手。本町辺りの町割りが行われ新たな街が出現、ここに京・大阪をはじめとして関西地方の商人たちがおいおい集まり、この地が江戸第一の商店街となるべき素地が開かれた。この年神田上水成る。板倉勝重を町奉行に任じ、町年寄を置いて市政をつかさどらせた。
文禄４年	（1595年）　後藤庄三郎、江戸へ下り、金座を開く。
慶長５年	（1600年）　関ヶ原合戦によって天下の実権は徳川氏に帰した。
同　８年	（1603年）　江戸幕府が開府。豊島洲崎の埋め立て工事が行われる。日本橋・京橋が架橋される。
同　９年	（1604年）　日本橋を起点とする五街道の制を定め、一里塚が築かれた。
同　17年	（1612年）　駿府の銀座を江戸の新両替町（今の銀座一～四丁目）へ移す。江戸築港工事で八丁堀開削される。
同　18年	（1613年）　摂津国（大阪府）佃村出身の漁師が江戸近海の漁業免許を受ける。
元和２年	（1616年）　大和屋助五郎、本小田原町（今の室町一丁目）に魚市場を開く。
同　３年	（1617年）　庄司甚左衛門、葺屋町（今の蛎殻町一・二丁目、富沢町の一部を加えた辺りの地域）に「吉原」を開く。その後40年を経た明暦３年（1657年）に浅草日本堤内に移転する。
同　７年	（1621年）　准如上人、瀬町（今の日本橋三丁目辺り）に西本願寺を創設。
寛永元年	（1624年）　猿若勘三郎、中橋に歌舞伎狂言座を開く。後、禰宜町（今の人形町辺り）へ移される。僧霊厳、霊厳寺創設。
正保元年	（1644年）　摂津国佃村、大和田村の漁師が石川島南の寄洲を拝領し、佃島を築成する。
明暦３年	（1657年）　本郷丸山の本妙寺から出火、江戸大火（いわゆる振袖火事）となり、延焼は神田、日本橋、京橋、佃島、深川に及び死者10万７千人。大火後の都市計画で区内の様子は一変した。
万治元年	（1658年）　築地の埋め立て始まる。西本願寺築地へ移る。
寛文２年	（1662年）　この年大根河岸（今の銀座一丁目辺り）に青物市場が起立したと伝えられる。
元禄11年	（1698年）　永代橋初めて架かる。
享保３年	（1718年）　町火消組合が成立し、同５年いろは組合結成される。
明和８年	（1771年）　前野良沢ら、鉄砲洲奥平邸でターヘルアナトミアの翻訳に着手。４年の星霜を経て「解体新書」を出版。
安永元年	（1772年）　中洲埋め立て地成り、町屋となる。1789年取り払われる。

年　代	出　来　事
寛政２年	（1790年）　石川島に人足寄場を置く。（路上生活者を正業に就かせる策）
同　12年	（1800年）　銀座役所、蛎殻町に移転。
文化３年	（1806年）　芝の車町から出火、区内の大半を焼き、延焼は浅草元鳥越東本願寺辺に及ぶ。
文政12年	（1829年）　神田佐久間町から出火、延焼は築地、佃島に及ぶ。
天保５年	（1834年）　再び神田佐久間町から出火、延焼は木挽町、佃島に及ぶ。
同　13年	（1842年）　葺屋町の芝居に対し、浅草へ移転命令。
文久３年	（1863年）　石川島で洋式木造の千代田型艦進水式挙行。
元治元年	（1864年）　佃島地先に砲台築かれる。
慶応３年	（1867年）　鉄砲洲に居留地を設けることに決まる。
同　４年	（1868年）　徳川慶喜、大政奉還し、維新政府の時代となる。江戸の人心動揺し、四民離散し人口急減する。
＜明治時代＞	
明治元年	（1868年）　江戸を東京と改称、明治天皇が臨幸。新日本の首都となる。
同　２年	（1869年）　江戸時代の名主役制を廃止し、中年寄・添年寄を置き、府下を分けて50区とした。後年の日本橋区・京橋区の地は、50区中の１番組から13番組まで、それに35番組、36番組の各一部および37番組の全部にわたって編入された。元数寄屋橋から出火、銀座は焼土と化した。東京、横浜間の電信完成、鉄砲洲運上所わき伝信局で事務を開始する。
同　４年	（1871年）　府下を大区６、小区97に分かち、大区に取締り総長御用掛を命じ、小区に戸長、副戸長を置く。
同　５年	（1872年）　和田倉門内の兵部省添屋敷から出火した昼火事で、銀座・築地一帯にかけて焼野原となる。銀座通煉瓦街の改築規程が告示された。
同　６年	（1873年）　区内に初の公立小学校設立。（第一大区第一中学区一番公立小学阪本学校）日本橋改架（橋材は精良な加鱗質の槻）工事成る。銀座の馬車道が完成。京橋以南にガス灯が点灯、日本橋・京橋間にも英国製ランプ点火する。蛎殻町に私立幼童学所創立。（後、有馬学校と改称）蛎殻町有馬邸へ水天宮遷座。蛎殻町に本邦初の洋紙製造工場建設される。
同　７年	（1874年）　京橋・新橋間に馬車が開通。小網町に東京米穀問屋市場設立。
同　８年	（1875年）　京橋を石橋に改架。木挽町にわが国最初の商業学校「商法講習所」開校。
同　９年	（1876年）　数寄屋町から出火、大火となり佃島に及び8,850戸焼失。
同　10年	（1877年）　桜橋・鍛冶橋を鉄橋に改架。日本橋四日市組魚市場開設。銀座煉瓦街できる。
同　11年	（1878年）「郡区町村編制法」が公布。大小区制が廃止され、府下は新たに15区６郡制に改変。この府内15区に区長を任命し区役所が置かれた。この時中央区の前身日本橋・京橋の両区が誕生、11月４日に日本橋区役所は区内岩代町１番地に、京橋区役所は区内築地一丁目４番地にそれぞれ開庁。兜町に株式取引所設立。
同　12年	（1879年）　箔屋町から出火、築地居留地の約半分7,000戸を焼失。 15区会規則により第１回区会議員選挙。
同　15年	（1882年）　新橋、日本橋間の鉄道馬車開通。銀座にアーク灯点火。箱崎町に日本銀行設立。
同　18年	（1885年）　茅場町から出火、北島町、亀島町など1,300戸を焼失。
同　19年	（1886年）　中洲埋め立て工事完了。
同　21年	（1888年）　市区改正により、銀座の煉瓦舗装がコンクリート舗装化。
同　22年	（1889年）　東京、京都、大阪に３大都市特別制施行。「東京市区会条例」が定められ、各区に区会が設けられる。木挽町に歌舞伎座開場。
同　25年	（1892年）　佃島南方の洲（１号地）の埋め立て工事竣工（しゅんこう）。２号地は27年、新佃島は29年に埋め立て工事竣工（しゅんこう）。
同　26年	（1893年）　明治座開場。
同　30年	（1897年）　永代橋竣工（しゅんこう）。
同　33年	（1900年）　米国宣教師ドクター・トイスラー、明石町に診療所を開設。（後、聖路加国際病院となる）
同　35年	（1902年）　月島渡船場で、汽船ひき船２隻をもって交互運転開始。
同　36年	（1903年）　相生橋の架設により、月島へ水道が敷かれる。
同　38年	（1905年）　日露戦争の戦勝を記念して、かちどきの渡し開始。
同　44年	（1911年）　日本橋改修工事竣工（しゅんこう）。

年　代	出　来　事
＜大正時代＞	
大正２年	（1913年） 月島３号地埋め立て。
同　10年	（1921年） 京橋、新橋間の道路拡張工事が開始され、歩道の幅員３間、車道の幅員９間に改められる。
同　12年	（1923年） ９月１日関東大震災が起こり、市内134カ所から出火、首都の大半を焼失し、日本橋区100％、京橋区88.7％が焼失するという壊滅的な打撃を受けた。
同　13年	（1924年） 昭和通りをはじめとする復興都市計画路線決定。
同　14年	（1925年） 歌舞伎座、新橋演舞場新築開場。
＜昭和時代＞	
昭和４年	（1929年） 京橋区役所庁舎竣工。（現中央区役所の所在地）
同　５年	（1930年） 日本橋区役所庁舎竣工。築地川にＹ字に架かる三吉橋完成。東京劇場開場。
同　６年	（1931年） 晴海町の埋め立て工事竣工。
同　10年	（1935年） 築地に中央卸売市場開設。
同　15年	（1940年） 勝鬨橋竣工開通。
同　16年	（1941年） 太平洋戦争始まる。
同　18年	（1943年） 都制実施。
同　20年	（1945年） 激しい大規模な空襲が相次ぎ、区内の３分の１が灰じんに帰した。建物疎開、学童疎開で人口激減。８月無条件降伏、太平洋戦争終結。
同　21年	（1946年） 都制の改制により、区の自治権拡充、課税権、条例、規則の特定権付与、区長公選制実施。
同　22年	（1947年） 中央区誕生。（日本橋、京橋両区統合）「地方自治法」施行。（特別区となる）６・３制教育の実施、区内に10校の新制中学校創立。第１回中央区体育祭開催。
同　23年	（1948年） 中央区の紋章が区議会の議決によって定められる。
同　24年	（1949年） 月島を除く全区域がくみ取り便所禁止区域に指定される。三十間堀・東堀留川・新川・竜閑川・浜町川埋め立て。キティ台風により区内水害発生。第１回中央区文化祭開催。
同　25年	（1950年） 区内小学校完全給食実施。京橋図書館が都から区に移管。
同　26年	（1951年） 「木挽町」の町名を「銀座東」に改称。都の福祉事務所設置により明石町、月島民生館および日本橋民生事務所廃止。区営明石町および日本橋共同作業所開設、区営月島運動場開設。
同　27年	（1952年） 「地方自治法」の一部改正により、区長公選制廃止。教育委員会設置。月島公益質屋区営となる。
同　28年	（1953年） ４月　区広報創刊。中央区ＰＴＡ協議会発足。第１回中央区商業まつり開催。（以後毎年開催）区政概要初刊。（以後32年まで隔年発行、区政年鑑の前身）
同　29年	（1954年） 「日本橋呉服橋」と「槇町」の町名を「八重洲」に改称。中央区初の各種功労者表彰式挙行、被表彰者106人。（以後毎年実施）中央区体育協会発足。
同　30年	（1955年） 晴海埠頭開港。晴海で国際見本市開催。中央区青少年問題協議会発足。佃の渡しに新鋭第十有明丸就航。
同　31年	（1956年） 日本橋共同作業所付属保育園開設。新制度の教育委員会発足。
同　32年	（1957年） 中央区10周年記念事業として、中央会館・月島図書館・月島共同作業所の設置および中央区史を編集発行することに決定。９月、区の機構改革を行い９出張所を廃止し、支所制を採用、新たに月島支所を設置。鎧橋架け替え工事完了。区立結婚相談所開設。
同　33年	（1958年） 柏学園新園舎完成。
同　34年	（1959年） 国民健康保険事業開始。区政年鑑発行。（区政概要を引き継ぎ毎年発行となる）
同　36年	（1961年） 都立明石町・勝鬨の２保育園が区に移管。国民年金制度実施。
同　37年	（1962年） 有馬・浜町の中学校、城東・京橋昭和の２小学校統合。区立小諸高原・宇佐美臨海両学園開設。本区初の児童専用公園として鉄砲洲児童公園完成。
同　38年	（1963年） 中央区住居表示審議会が設置され、住居表示整備の年度別実施計画策定。月島に豊海町誕生。区立霊岸島区民館ならびに青年館開設。久松小学校開校90周年記念式典に天皇・皇后両陛下行幸啓。
同　39年	（1964年） 区立小舟町、新富町、月島区民館ならびに児童館、月島保育園が開設。柏学園に屋内体操場完成。佃大橋竣工開通、佃の渡し廃止。
同　40年	（1965年） ４月　事務事業移管、４部制を採用するとともに日本橋・月島両支所を特別出張所に改める。 ４月　月島地区にて本区初の新住居表示実施。 区立伊豆高原荘完成開設。

年　代	出　来　事
昭和41年	（1966年）　区立かきがら町区民館、日本橋保育園開設。区立晴海住宅完成。
同　42年	（1967年）　４月１日　京華小学校明正分校独立。 ８月22日　区立総合体育館落成。 12月９日　都電銀座線85年の歴史を閉じる。
同　43年	（1968年）　３月23日　区立中学校の統廃合による各中学校の閉校式が行われる。 ７月17日　千葉県館山市に区立館山臨海学園完成。 25日　区立横断歩道橋第１号、清杉通りに完成。 10月１日　中央区東京百年記念祭行われる。
同　44年	（1969年）　４月１日　公害交通対策課発足。騒音規制に関する事務などの取り扱いを始める。 11月１日　区立勝どき保育園、勝どき区民館完成。 20日　区役所新庁舎落成式。 12月１日　新庁舎で執務開始。区民相談コーナー開設。
同　45年	（1970年）　４月１日　区立科学教育センター開設。 ６月１日　区立晴海保育園開設。区広報車活動開始。 ７月21日　子どもの広場として区内の道路25カ所の開放を始める。 ８月２日　銀座に歩行者天国誕生。
同　46年	（1971年）　１月21日　日本橋社会教育会館、同図書館開館。 ４月17日　晴海社会教育会館開設。月島図書館も併設で新装開館。 12月16日　勝どき敬老館、勝どき児童館開設。
同　47年	（1972年）　４月１日　区営月島運動場にナイター施設完成。 10月31日　中央区再開発審議会「中央区再開発基本構想に関する答申」を区長に提出。 11月11日　区内を走る都電３系統廃止、区内で都電の姿は見られなくなる。
同　48年	（1973年）　４月17日　桜川敬老館・桜川保育園が落成。 ５月21日　ゴミ船積み中継施設「浮ドック台船」晴海埠頭（ふとう）設置について都区間協定を締結。（期間は６月１日から11月末日まで） ７月１日　休日診療が中央区医師会、日本橋医師会の協力で始まる。 28日　月島第二児童公園内に「ジャブジャブ池」オープン。 10月30日　久松小学校開校100周年記念式典が皇太子・同妃両殿下をお迎えして開かれる。
同　49年	（1974年）　１月23日　区立中央会館開設。 ３月25日　日本橋・紅葉川・久松中学校の閉校式行われる。（３校は統合されて新たに４月１日から第四中学校として開校分散授業開始）
同　50年	（1975年）　４月１日　特別区の自治権が拡充され、区長公選制復活、保健所を含む大幅な事務移管、人事権の確立など特別区の新制度が開始。組織改正が行われ、広報室、環境衛生部、建築部を新設。 ４月23日　区内河川の水質検査開始。 ６月１日　区政モニター制度発足。 10日　銀座に公設浴場（銀座湯）開設。 ８月１日　日本橋地域の大気汚染常時測定を開始。 12月19日　大気汚染健康被害救済地域に指定される。
同　51年	（1976年）　７月30日　中央区都市計画審議会が発足し、第１回会議で築地川東支川埋め立てに関連する公園の設置を決定。
同　52年	（1977年）　５月19日　区制施行30周年記念式典が中央会館で行われる。（区政功労者79人表彰） ７月20日　住宅修繕資金融資あっせん制度新設、申し込み受け付け開始。
同　53年	（1978年）　４月１日　倒産関連および不況業種企業に対して、融資に関わる信用保証料の助成制度新設、申請受け付け開始。 ３日　小中学校のスポーツ開放（体育館）始まる。 10月22日　休日の準夜間診療始まる。
同　54年	（1979年）　６月１日　区立浜町会館開館、浜町保育園開設。 ７月１日　区立浜町運動場開設。 ８月１日　中央区基本構想審議会発足。

年　代	出　来　事
昭和55年	(1980年)　２月28日　災害時の食料供給協力協定を締結。
	２月29日　中央区三十年史発行。
	４月１日　豊海小学校開校、豊海幼稚園開園。
	銀座湯、区に移管される。
	５月１日　築地社会教育会館開館、築地保育園開園。
	９月14日　第１回子どもフェスティバル開催。(以後毎年開催)
同　56年	(1981年)　２月18日　シルバー人材センター中央区高齢者事業団発足。(９月１日社団法人となる)
	４月23日「中央区基本構想」が基本構想審議会より答申される。
同　57年	(1982年)　１月１日　日本橋茅場町・兜町地区に新住居表示を実施。(本区の住居表示実施率95.3%)
	５月26日「中央区八景」公募により決定。
	９月18日　第１回ミス中央コンテスト行われる。(以後令和４年度まで開催)
	11月６日　久松小学校開校110周年記念式典が徳仁親王殿下をお迎えして開かれる。
	12月11日　中央保健所・福祉センター・教育センター・明石町保育園を併設する複合施設落成式。
同　58年	(1983年)　４月16日　宇佐美臨海テニス場開設。
同　59年	(1984年)　４月１日　銀座中学校開校。(第一・第二中学校、同校に統合される)
同　60年	(1985年)　３月31日　結婚相談事業廃止。
	４月１日　外国人講師による中学校英語授業始まる。
	17日　日本橋プラザ株式会社設立。
	６月１日　財団法人中央区都市整備公社設立。中央区市街地開発事業指導要綱を策定・施行。
	９月５日「中央区行政システム効率化大綱」策定。
同　61年	(1986年)　４月１日　産業会館・佃区民館・中央保健所月島分室開設。
	16日　ボランティア保険制度創設。
	20日　休日応急診療所・休日応急歯科診療所診療開始。
	８月４日　区の木“やなぎ”、区の花“つつじ（さつきを含む)”が決定。
	11月21日　大島町避難者受入対策本部設置、避難民1,950人受け入れ開始。
	26日　新しい区の歌「わがまち」選定。
同　62年	(1987年)　１月１日　日本橋本石町・室町・本町地区に新住居表示実施。(実施率100%)
	３月19日　中央区制施行40周年記念式典開催。
	４月１日　区勤労者共済会設立。
	10月５日　月島地区まちづくり協議会設立。(以後区内全域・10地区に設置)
同　63年	(1988年)　１月１日　定住人口回復対策本部設置。(第１回本部会議は１月12日に開催)
	３月２日　区役所新富分庁舎・新富区民館落成式。
	15日　中央区平和都市宣言告示。
	４月20日　月島特別出張所等複合施設落成式。(月島児童館・月島駐車場新設)
	５月２日　土地開発公社設立。
	20日　政策調査会設置。
	６月１日　公文書公開制度開始。
	27日　住民登録関係オンライン化。
	７月28日　文化政策推進懇談会設置。
	８月３日　初の中学生海外派遣。(オーストラリアへ10日間・16人)
	13日　東京湾大華火祭開催。(晴海埠頭(ふとう))(平成27年まで開催)
	11月３日　平和像の除幕。
	20日　初の女性海外派遣。(ロンドンなどへ12日間・２人)
	21日　平和コンサート「平和の都市(まち)の音楽会」開催。(平成７年まで開催)
＜平成時代＞	
平成元年	(1989年)　２月11日　日本橋雪まつり開催。(東根市より雪のプレゼント)
	３月15日　平和都市宣言１周年記念「平和の都市(まち)の楽しい集い」開催。(以後毎年開催)
	平和の鐘完成式。
	４月１日　花の都中央区宣言告示。
	５月の第２土曜日を「中央区花と緑の日」と制定。

年　代	出　来　事
	初の区立自転車駐車場開設。（入船橋、備前橋第一・第二・第三）
	区役所第２・第４土曜日閉庁始まる。
	５月13日　ほっとオアシスふるさと中央第１回中央区花と緑の祭典を開催。
平成２年	（1990年）　３月15日　コミュニティふれあい銭湯実施。
	４月１日　太陽のまち中央区宣言告示。
	「住宅及び住環境に関する基本条例」施行。
	中央区民文化財初登録。（８件）
	３日　中央「区」の英語表記を「WARD」から「CITY」へ。
	６日　日本橋小学校第１回入学式。（開校式は６月２日）
	20日　浜離宮花と緑の集い開催。（22日まで開催、参加者約1,900人）（以後毎年開催）
	５月24日　月島第二小学校落成式。
	７月11日　公衆浴場「入船湯」公設民営で営業開始。
	８月24日　中央区大江戸まつり盆おどり大会開催。（25日まで、中央区音頭「これがお江戸の盆ダンス」発表。参加者約３万人）（以後毎年開催）
	10月１日　コミュニティ・ファンド制度開始。
同　３年	（1991年）　１月17日　オーストラリア・サザランド市の中学生など16人が区内中学校に体験入学。（22日までホームステイ）
	３月28日　八丁堀分庁舎落成式。
	４月１日　区のシンボルマーク告示。
	第三中を晴海中に、第四中を日本橋中に校名を変更。
	13日　月島スポーツプラザ開設。
	５月27日　中央区文化・国際交流振興協会設立。
	６月２日　クリーンデー実施。（以後毎年実施）
	18日　特別養護老人ホーム・高齢者在宅サービスセンター「マイホームはるみ」・晴海保育園・晴海中学校複合施設落成式。
	７月６日　山形県東根市と友好都市提携。
	９日　オーストラリア・サザランド市と姉妹都市提携。
	10月14日　中央区平和展開催。
同　４年	（1992年）　３月30日　区の新型バス「銀ブラ」運行開始。
	４月１日　区立精神薄弱者生活寮「フレンドハウス京橋」入居開始。
	６日　京橋築地小学校開校式。
	８月５日　区民健康村「ヴィラ本栖」利用開始。
	10月31日　月島地区築島100周年記念事業開催。
	11月14日　シニアセンター・佃児童館開設。
	12月１日　在宅福祉サービス（虹のサービス）事業開始。
同　５年	（1993年）　１月11日　住民票の自動交付開始。
	４月１日　区立幼稚園の３年保育を４園で実施。
	満３歳未満の乳幼児の医療費助成開始。
	４日　姉妹都市オーストラリア・サザランド市に中央区庭園完成、開園式挙行。
	28日　女性センター「ブーケ21」・桜川屋上公園開設。
	８月26日　新川地区と佃地区を結ぶ中央大橋が開通。
	12月９日　中央区初の民間賃貸マンションの借り上げ住宅「グリーンホームズ」の入居者募集を開始。
同　６年	（1994年）　４月１日　日本橋小学校、月島第三小学校等複合施設開設。
	７月16日　京橋図書館でコンピューターによる図書の貸し出しを開始。
	区内３図書館、オンラインで結ばれる。
	９月28日　障害者就労促進施設「さわやかワーク中央」開設。
	30日　本区初の名誉区民として、横関政一氏、岡内英夫氏、杵屋佐登代氏の３氏を顕彰。
	12月10日　日本橋保健所等複合施設開設。「リサイクルハウスかざぐるま明石町」開設。
同　７年	（1995年）　４月３日　財団法人中央区勤労者サービス公社発足。
	５月１日　日本橋休日応急診療所等複合施設（休日応急診療所・歯科診療所・薬局・久松町区民館）開設。

年　代	出　来　事
	６月１日　建物耐震診断の助成金制度を創設、受け付け開始。
	７月５日　友好都市山形県東根市と災害相互援助協定締結。
	10月10日　マイホーム新川（特別養護老人ホーム・高齢者在宅サービスセンター併設）開設。
	11月１日　東京メトロポリタンテレビジョン開局。（特別区は「東京ファイル23」に番組提供し、中央区の第１回放送は11月21日）
	12月15日　セレモニーホール等複合施設（セレモニーホール・勝どきコミュニティルーム）利用開始。
平成８年	(1996年)　６月１日　浜町公園地下駐車場（収容台数200台）・駐輪場開設。
	「ちゅうおうエコ・オフィス町内会」開始。
	７月15日　巡回型ホームヘルプサービス開始。
	29日　岡山県玉野市と災害相互援助協定締結。
	９月７日　総合スポーツセンター開設。
同　９年	(1997年)　１月17日　印鑑登録自動交付機稼働。
	２月26日　基本構想審議会発足。
	３月15日　区制施行50周年記念式典挙行。（中央会館）
	７月31日　中央区リサイクル推進計画策定。
	10月10日　中央区制施行50周年・中央区体育協会創立50周年記念区民大運動会開催。（月島運動場他、参加者数12,000人）
同　10年	(1998年)　１月１日　昭和29年以来減少を続けていた本区人口が、45年ぶり対前年比で増加。（297人の増）
	５月27日　中央エフエムと「災害・防災情報等の放送に関する協定」を締結。
	６月19日　「中央区基本構想」が区議会の議決を経て策定される。
	７月１日　コミュニティFM（中央エフエム）放送でラジオ広報「中央区からのお知らせ」放送開始。
	12月１日　クリーン・リサイクル中央区宣言告示。
	銀座地区における「機能更新型高度利用地区」と「街並み誘導型地区計画」施行。
同　11年	(1999年)　２月３日　「安心・快適・躍動 '99」中央区基本計画策定。
	５月17日　日本橋区民センター開設。（６月１日公会堂集会室、７月１日ホール「日本橋劇場」）
	７月１日　京橋プラザ（住宅・区民館・コミュニティルーム・駐車場）開設。
	11日　京橋休日応急診療所開設。
	10月18日　石川島公園内に「パリ広場」が完成。
	11月30日　本区名誉区民として三田政吉氏、日野原重明氏、山本惠造氏、常磐津英寿氏の４氏を顕彰。
	12月15日　築地市場移転断固反対総決起大会開催。（中央会館、参加者約900人、106,032人の署名を東京都へ提出）
同　12年	(2000年)　２月１日　介護保険事業計画策定。
	８日　「中央区一般廃棄物処理基本計画」策定。
	４月１日　区の表記を「東京都中央区」から「中央区」に改める。
	「地方分権法」が施行される。
	介護保険制度開始。
	住民票の写し、印鑑登録証明書の電話予約による土・日曜日、祝日、夜間交付開始。
	区立図書館が日曜日全館開館となる。
	都区制度改革により、特別区が基礎的地方公共団体となる。
	７月１日　日本橋・東京駅前地区における「機能更新型高度利用地区」と「街並み誘導型地区計画」施行。権利擁護支援センター「すてっぷ中央」（中央区社会福祉協議会）事業開始。
	８月１日　プレミアム付きハッピー買物券（区内共通買物券）販売開始。
	12月12日　都営地下鉄12号線「大江戸線」全線開業。
	15日　十思スクエア（１月９日デイルーム、コミュニティルーム）開設。
同　13年	(2001年)　１月22日　京華スクエア・コミュニティルーム（２月１日ハイテクセンター）開設。
	１月26日　本区の人口が12年ぶりに８万人台を回復。
	４月１日　中央保健所と日本橋保健所が区内全域を所管する中央区保健所として統合される。旧日本橋保健所は日本橋保健センターとなる。
	14日　晴海区民館開設。
	６月１日　晴海一丁目駐車場開設。

年　代	出　来　事
	27日　区議会の本会議をコミュニティFMで生中継開始。
	８月１日　中央清掃工場本稼働開始。
	２日　温浴プラザ「ほっとプラザはるみ」開設。（令和２年３月まで開設）
平成14年	（2002年）　２月７日　第１回「中央区ごみ会議」開催。（中央区役所）
	４月１日　区立小中学校で完全学校週５日制始まる。
	５月１日　区立図書館でインターネットを使った予約サービス開始。
	６月３日　都心再生会議を設置。
	28日　第１回「中央区ブーケ祭り」開催。
	７月１日　窓口の時間延長（毎週水曜日、午後７時まで）を試行実施。（12月までの６カ月間）
	区議会の情報公開を開始。
	８日　月島保育園新園舎開設。
	19日　月島保健センター開設。
	８月５日　住民基本台帳ネットワークシステムの一部稼働開始。
	勝どき敬老館、勝どきデイルーム開設。
	10月１日　景気回復対策本部を設置。
	中央区ホームページがリニューアルオープン。
	11月27日　区の環境マネジメントシステムがISO14001の認証取得。
同　15年	（2003年）　１月２日　中央区江戸開府400年記念事業オープニングイベント開催。（３日まで、浜離宮恩賜庭園）
	８日　窓口の時間延長（毎週水曜日、午後７時まで）本格実施。
	20日　歩行喫煙・ポイ捨て防止キャンペーン始まる。
	４月１日　京橋清掃事務所と日本橋清掃事務所が中央清掃事務所として統合される。
	４日　朝潮小橋の渡り初め式。
	６月28日　江戸開府400年記念シンポジウム開催。（日本橋社会教育会館）
	８月25日　住民基本台帳ネットワークシステム本格稼働開始。
	９月１日　「違法駐車等防止条例」を施行。
	12月20日　江戸ルネッサンス会議2003開催。（銀座ブロッサム、来場者650人）
同　16年	（2004年）　１月１日　快適な都心居住推進本部設置。
	２月26日　NPO・ボランティア団体交流サロン開設。（十思スクエア）
	３月29日　本区の人口が23年ぶりに９万人台を回復。
	４月１日　まごころステーション開設。（区役所１階）
	公共施設（保養施設）予約システムの運用開始。
	21日　「リサイクルハウスかざぐるま箱崎町」開設。
	５月19日　全国初の「金融学習特別推進地区」の委嘱を受ける。
	６月１日　「中央区歩きたばこ及びポイ捨てをなくす条例」施行。
	公共施設（社会体育施設・社会教育会館）予約システムの運用開始。
	７月１日　介護老人保健施設「リハポート明石」、知的在宅介護支援施設「レインボーハウス明石」、明石在宅介護支援センター開設。
	15日　子育て交流サロン「あかちゃん天国」開設。（月島区民センター１階）
	８月２日　八丁堀保育園開設。
	10月15日　「安全で安心なまちづくりを推進する条例」を制定。
	12月１日　区立図書館が「国民の祝日」と「12月28日」の開館開始。
同　17年	（2005年）　３月19日　年度末・年度始めに土曜日の窓口開庁を実施。（３月19日・26日、４月２日・９日の４日間）
	４月１日　危機管理室開設。
	「子どもの居場所（プレディ）」を月島第三小学校、豊海小学校に開設。
	７月１日　「ナイトサポート事業」開始。
	「クールビズ」実施。（９月30日まで）
	10日　「まちかどクリーンデー」開始。（毎月10日）
	８月１日　戸籍事務のコンピューター処理開始。
	10月１日　認知症高齢者グループホーム等複合施設「相生の里」開設。

年　代	出　来　事
	21日　第１回中央区食の祭典「味わい広場」開催。（晴海アイランドトリトンスクエア、23日まで）
	12月１日　郷土天文館「タイムドーム明石」開館。
平成18年	（2006年）　４月４日　本区の人口が昭和50年以来31年ぶりに10万人を達成。
	10日　明石幼稚園、月島第一幼稚園で、預かり保育開始。
	６月16日　中央区・サザランド市姉妹都市提携15周年記念祝賀文書調印式。（サザランド市）
	７月26日　定住人口10万達成記念「日野原重明氏講演会＆神崎愛コンサート」開催。（銀座ブロッサム）
	10月19日　西多摩郡檜原村と地球温暖化対策事業「中央区の森」協定締結。
	12月１日　「ちゅうおうナビ」GIS（地理情報システム）開始。
同　19年	（2007年）　１月29日　千葉県銚子市と災害時相互援助協定締結。
	２月11日　中央区・東根市友好都市提携15周年記念東根市の大けやき後継樹植樹式。
	３月３日　中央区制施行60周年記念式典。（銀座ブロッサム、感謝状贈呈、名誉区民常磐津氏による記念公演）
	４月１日　「子どもの居場所（プレディ）」を京橋築地小学校、月島第一小学校に追加開設。 区民文化財として新たに２件を登録。（「八丁堀三丁目（第２次）遺跡内　朗惺寺（ろうせいじ）跡出土こけら経」「平野活版製造所（平野富二）製造の活版印刷機」）
	６月１日　小中学生の通院に要する費用を助成開始。
	18日　清洲橋、永代橋、勝鬨橋が国の重要文化財に指定。
	９月３日　子ども家庭支援センター「きらら中央」開設。 子どもショートステイ、トワイライトステイ、一時預かり保育開始。
	25日　勝どき保育園新園舎開設。
	12月１日　かちどき西保育園定数拡大。（81人→94人）
同　20年	（2008年）　１月15日　「中央区平和祈念バーチャルミュージアム」開設。
	４月１日　区民文化財として新たに２件を登録。（「東京薬事協会所蔵文書」、「紀元二千六百年記念日本万国博覧会開催準備関係資料」） さわやか保育園・勝どき６丁目開設。
	４日　中央区文化振興プランを刊行。
	７月１日　テレビ広報番組「こんにちは　中央区です」の放送を開始。
	８月31日　総合防災訓練（東京都・江東区合同）実施。
	９月17日　本区の人口が昭和47年以来36年ぶりに11万人を達成。
	10月17日　本区名誉区民として、福原義春氏、中村富十郎氏、故宮入正則氏の３氏を顕彰。
	11月２日　中央区まるごとミュージアムを開催。（第１回）
	14日　区民文化財として新たに２件を登録。（「明治屋京橋ビル」、「日本橋三越本店のパイプオルガン」、うち明治屋京橋ビルは区指定文化財として第１号の指定）
同　21年	（2009年）　２月22日　第１回中央区観光検定を実施。
	６月７日　地域防災フェアが区内の小学校などの防災拠点を会場に開催。（７月26日まで）
	８月１日　十思保育園開設。 中央区子育て支援対策本部設置。
	12月１日　中央区コミュニティバス「江戸バス」運行開始。
同　22年	（2010年）　４月１日　区民文化財として新たに２件を登録。（「原胤昭関係文書」、「豊後岡藩中川家上屋敷跡（明石町遺跡）出土文書　附12号遺構穴蔵部材」）
	４月28日　「協働ステーション中央」開設。（十思スクエア）
	５月９日　土のリサイクルモデル事業開始。（リサイクルハウスかざぐるま箱崎町）
	９月１日　問屋街産業支援施設「YY パーク」開設。
	10月６日　人形町保育園等複合施設開設。
	11月20日　「国民読書年・京橋図書館百周年記念シンポジウム」開催。
同　23年	（2011年）　４月１日　区民文化財として新たに１件を登録、１件を指定。（「震災復興橋梁図面」登録、「日本橋魚市場絵図面」指定）
	７月１日　東京ベイネットワーク株式会社と「災害・防災情報等の放送に関する協定」を締結。
	８月９日　平和モニュメント完成披露式。（月島第二児童公園）
	10月９日　ハッピー食事券（区内共通飲食券）販売。
	11月16日　本区の人口が昭和44年以来42年ぶりに12万人を突破。

年　代	出　来　事
平成24年	（2012年）　３月28日　中央区コミュニティバス「江戸バス」乗車100万人達成。
	４月１日　区民文化財として新たに１件を指定。（「寛正三年板碑」）
	〃　晴海臨海公園開設。
	〃　「中央区暴力団排除条例」施行。
	５日　宮城県石巻市と災害時相互援助協定締結。
	７月31日　中央小学校・明石小学校新校舎竣工（しゅんこう）。
	10月19日　本区名誉区民として、細田安兵衛氏、竹内誠氏の２氏を顕彰。
	23日　中央区帰宅困難者支援施設運営協議会設立。
	12月１日　晴海児童館・晴海こども園開設。
同　25年	（2013年）　４月１日　区民文化財として新たに１件を登録、１件を指定。（「為替バンク三井組柱頭」登録、「江戸三座入場券」指定）
	２日　区内４警察署と「中央区地域安全の推進に関する覚書」を締結。
	〃　歌舞伎座が新開場。
	10日　本区の人口が昭和42年以来46年ぶりに13万人を突破。
	６月２日　「環境情報センター」開設。
	９月８日　東京都が第32回オリンピック競技大会ならびに第16回パラリンピック競技大会の開催都市に決定したことを受け、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会対策本部を設置。
	10月１日　京橋こども園開設。
	〃　オリンピック・パラリンピック調整担当課新設。
	２日　障害者地域活動支援センター「ポケット中央」開設。
	11月１日　地域密着型特別養護老人ホーム「ケアサポートセンターつきしま」開設。
	12月２日　中央区ホームページリニューアルオープン。
	19日　まち歩き観光地図アプリ「中央区まち歩きマップ」配信開始。
同　26年	（2014年）　４月１日　区民文化財として新たに２件を登録。（「越後屋文書」、「八丁堀三丁目遺跡内朗惺寺跡出土蔵骨器　附瀬戸・美濃産陶器　鳴海織部向付」）
	６月30日　十思スクエア別館竣工（しゅんこう）。
	７月31日　明正小学校等複合施設竣工（しゅんこう）。（落成式は10月25日）
	８月５日　学校法人聖路加国際大学と包括連携協定を締結。
	11月４日　山梨県富士河口湖町と災害時相互援助協定を締結。
	12月10日　築地本願寺本堂、他国の重要文化財に指定。
同　27年	（2015年）　３月３日　千代田区・港区・江東区および東京都と自転車シェアリングの基本協定を締結。
	４月１日　区民文化財として新たに１件を登録、１件を指定。（「常盤橋擬宝珠」、「佃島沽券絵図控」）
	27日　本区の人口が昭和39年以来51年ぶりに14万人を突破。
	６月２日　早稲田大学理工学術院と理数教育推進に関する協定を締結。
	10月１日　国立がん研究センター中央病院との災害時の医療救護活動に関する協定を締結。
	〃　コミュニティサイクル事業実証実験開始。
	12月17日　「中央区オリンピック・パラリンピック区民協議会」設立。
同　28年	（2016年）　２月９日　中央区基本構想審議会発足。
	４月１日　区民文化財として新たに２件を登録。（「片岡家文書」、「日本橋人形町三丁目（第２次）遺跡出土陶磁器・土器」）
	５月17日　中央区・サザランド市姉妹都市提携25周年記念式典開催。
	７月25日　三越日本橋本店が国の重要文化財に指定。
	29日　豊海小学校・豊海幼稚園竣工（しゅんこう）。（落成式は11月26日）
	８月26日　中央区・東根市友好都市提携25周年記念行事開催。
	10月14日　本区名誉区民として、古屋勝彦氏、堅田喜三久氏、杵屋淨貢氏の３氏を顕彰。
	11月19日　「中央区観光情報センター」開設。
	〃　「築地魚河岸」プレオープン。
	12月26日　「勝どきおとしより相談センター」開設。
同　29年	（2017年）　１月13日　本区の人口が昭和37年以来55年ぶりに15万人を突破。
	２月20日　中央区基本構想審議会　基本構想を答申。
	３月13日　中央区制施行70周年記念パネル展「中央区70年のあゆみ」開催。（４月３日まで、区役所、日本橋・月島区民センター）

年　代	出　来　事
	４月１日　区民文化財として新たに２件を登録。(「住吉神社「佃嶋住吉御社再建仕法書」版木」、「長谷川時雨関連資料」)
	６月21日　「中央区基本構想」が区議会の議決を経て策定される。
	６月25日　ブラジルオリンピック委員会と東京2020オリンピック競技大会における学校施設の使用等に関する覚書を締結。
	８月25日　中央区防災マップアプリ配信開始。
	10月１日　桜小橋の渡り初め式実施。
	10月21日　郷土天文館「タイムドーム明石」特別展　区制施行70周年記念「中央区のあゆみ－戦後の発展とまちの変化－」開催。(12月10日まで)
	10月26日　サイバーセキュリティに関する協定締結式実施。
	11月６日　「人形町おとしより相談センター」開設。
	12月１日　中央区版ふるさと納税「ふるさと中央区応援寄附」開始。
平成30年	(2018年)　４月１日　区民文化財として新たに２件を登録、１件を指定。(「日本橋野村ビルディング旧館」登録、指定。「八丁堀三丁目遺跡内朗惺寺跡出土木製卒塔婆」登録)
	４月２日　子ども発達支援センター「ゆりのき」開設。
	４月11日　中央区観光プロモーション映像を公開。
	５月１日　区政への提案制度創設。
	５月14日　本区の人口が昭和34年以来59年ぶりに16万人を突破。
	７月27日　第１回「東京国際合唱コンクール　in HARUMI」開催。(29日まで、第一生命ホール)
	10月１日　築地魚河岸グランドオープン。
	10月７日　水陸両用バス「スカイダック銀座」の運行開始。
	10月10日　築地市場が閉場。
	11月４日　環状第２号線（豊洲～築地）暫定開通。
同　31年	(2019年)　３月28日　介護予防プログラム「中央粋なまちトレーニング」開発、お披露目会の開催。
	４月１日　区民文化財として新たに１件を登録。(「長谷川春子作挿絵の原画及び素描」)
	４月２日　オーストラリアパラリンピック委員会と東京2020パラリンピック競技大会における学校施設の使用等に関する覚書を締結。
＜令和時代＞	
令和元年	７月28日　「折り鶴ウェーブ」キックオフイベント開催。(日本橋三井タワー)(８月２日から４日までは銀座伊東屋、25日は晴海トリトンスクエアで開催)
	８月30日　銀座一丁目認可保育所等複合施設竣工(しゅんこう)。
	10月17日　台風19号により被害を受けた福島県川俣町に支援物資を提供。
	11月27日　「ブラジリアン・ユース・スクール・ゲームズ2019」に本区中学生２人が参加。
	12月２日　要保護児童の早期発見と児童虐待の未然防止に向けた情報共有等に関する協定締結式。
同　２年	(2020年)　４月1日　区民文化財として新たに2件を登録。(「門跡橋の親柱及び高欄」、「清川玄道関係文書」)
	２月５日　中央区新型コロナウイルス感染症対策本部を設置。
	４月27日　本区の人口が昭和29年以来66年ぶりに17万人を突破。
	４月30日　首都高速道路日本橋区間地下化事業の開始。
	７月31日　阪本小学校新校舎竣工(しゅんこう)。
	８月３日　フードドライブ開始。(中央清掃事務所)
	10月１日　バス高速輸送システム「東京 BRT」のプレ運行開始。
同　３年	(2021年)　１月14日　桜川敬老館等複合施設竣工(しゅんこう)。
	３月30日　ゼロカーボンシティ中央区宣言告示。
	４月１日　区民文化財として新たに２件を登録。(「近岡善次郎作 築地・隅田川等風景画」、「日本橋蛎殻町一丁目遺跡内播磨国山崎藩 本多家屋敷跡125号遺構出土遺物」)
	５月２日　新型コロナウイルスワクチン集団接種開始。
	６月１日　ホテル事業者複数と災害時等における宿泊施設の提供等に関する協定を締結。
	７月９日　「銀座・築地周辺みどりのプロムナード構想」策定。
	７月13日　東京2020オリンピック競技大会選手村が開村。(８月11日まで)
	７月23日　東京2020オリンピック競技大会開催。(８月８日まで)
	８月17日　東京2020パラリンピック競技大会選手村が開村。(９月８日まで)
	８月24日　東京2020パラリンピック競技大会開催。(９月５日まで)

年　代	出　来　事
令和４年	（2022年）　３月４日　ロシアによるウクライナ侵攻に対し、中央区・中央区議会が抗議文書を在日ロシア連邦大使館に送付。
	４月１日　区民文化財として新たに１件を登録、１件を指定。（「一等水準標石（交無号）」「佃住吉講の獅子頭（龍虎・黒駒）」）
	６月３日　ゼロカーボンシティ実現に向けた共創推進に関する連携協定を東京電力パワーグリッド株式会社銀座支社と締結。
	７月23日　「東京2020大会１周年記念展」開催。 ・７月23日から８月５日まで　日本橋区民センター ・８月７日から19日まで　月島区民センター ・８月21日から９月５日まで　区役所本庁舎
	８月31日　城東小学校新校舎竣工（しゅんこう）。
	10月14日　本区名誉区民として、矢田美英氏、大谷信義氏の２氏を顕彰。
	12月４日　本の森ちゅうおう開設。
	12月18日　環状第２号線（築地・新橋間）本線開通。
同　５　年	（2023年）　１月５日　１月１日現在の定住人口が70年ぶりに最大を更新。（174,074人）
	１月13日　再生可能エネルギー電力の利用促進に関する連携協定を株式会社エナーバンクと締結。
	２月１日　中央区公式ホームページがリニューアルオープン。
	３月１日　リユース活動の促進に向けた連携と協力に関する協定を株式会社ジモティーと締結。

令和５年度の動き

月　日	区　政　の　動　き
４月１日	バス高速輸送システム「東京 BRT」のプレ運行（二次）開始。
〃	区民文化財として新たに２件を登録。（「関東大震災避難記念碑」「佃島旧名主森家及び関係資料」）
５月15日	朝潮運河船着場の移転。
６月４日	第20回「エコまつり」開催。（あかつき公園、来場者約2,000人）
６月20日	高齢の方や障害のある方などを対象に中央区コミュニティバス「江戸バス」の運賃無償化を開始。
６月23日	第21回「中央区ブーケ祭り」開催。（24日まで、男女平等センター「ブーケ21」）
７月１日	電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金に係る中央区重点支援給付金コールセンター設置。
７月28日	第５回「東京国際合唱コンクール　in HARUMI」開催。（30日まで、第一生命ホール）
７月31日	「森林環境譲与税の活用に係る都内連携に関する協定」を都内11自治体および東京都と締結。
８月９日	「暑さをしのぐ一時休憩場所」として薬局の利用開始。
８月25日	第33回「中央区大江戸まつり盆おどり大会」開催。（26日まで、浜町公園、来場者約73,000人）
９月２日	第77回区民体育大会総合開会式。（総合スポーツセンター）
９月３日	「総合防災訓練」実施。（浜町運動場ほか）
10月２日	区内一円で、第71回「中央区観光商業まつり」開催。（11月12日まで）
10月９日	第35回「区民スポーツの日」開催。（月島運動場ほか、来場者約1,500人）
10月22日	「健康福祉まつり2023」開催。（あかつき公園、福祉センター、中央区保健所ほか、来場者約4,000人）
10月26日	ふるさと納税の返礼品を拡充。
10月28日	第20回「子どもとためす環境まつり」開催。（久松小学校）
11月３日	各種功労者95人を表彰。
11月５日	「中央区まるごとミュージアム2023」開催。
〃	「中央区消費生活展2023」開催。
11月９日	「都心・臨海地下鉄新線推進大会2023」開催。（第一生命ホール）
11月17日	東京都へ都市高速道路晴海線等の都市基盤整備に関する要望書を提出。
11月20日	京橋図書館移転後の本庁舎地下フロアを改修し、情報公開コーナーおよび福祉保健部の一部組織（11月27日）を本庁舎地下１階に移転。

月　日	区　政　の　動　き
12月17日	晴海地域交流センター「はるみらい」開設。
12月22日	中央区子育て世帯応援特別給付金コールセンターを設置。
1月8日	「中央区二十歳のつどい」開催。（ロイヤルパークホテル、621人参加）
1月13日	「新年こども羽根つき大会」開催。（総合スポーツセンター）
1月18日	福島県大熊町と「脱炭素による未来共創に関する連携協定」を締結。
1月26日	令和6年能登半島地震における義援金を送る。
2月1日	バス高速輸送システム「東京BRT」の選手村ルートの運行開始。
2月5日	石川県七尾市に救援物資を送る。
2月27日	「中央区平和展～永遠の平和を願って～」開催。（3月12日まで、区役所、日本橋・月島区民センター）
3月15日	第36回「平和の都市の楽しい集い」開催。（銀座ブロッサム、来場者854人）
3月25日	黎明小橋の供用開始。
3月26日	令和6年能登半島地震被災地支援「あなたの気持ちを届けよう！被災地応援フェア」開催。（27日まで、日本橋プラザ）

地　勢

位　置

本区は、東京23区のほぼ中央に位置を占め、東は隅田川を境に墨田・江東両区に、西は旧汐留川とこれに続く旧外濠に沿って千代田・港両区に、北は神田川の一部および旧竜閑川を境に千代田・台東両区に接し、南は東京湾に臨んでいる。

面　積

本区の面積は、10.115㎢で都総面積の約0.46％、区部総面積の約1.61％を占めている。

地　質

本区の地質は、東京低地の基盤となっている東京層とその上に不整合にのっている有楽町層からなり、東京層は第３紀に生じた岩石で下部、中部、上部の３層からなっている。下部層は、主に青灰色の凝灰質粘土からなり、中部層は下部砂礫層と下部粘土層、上部層は灰色や褐色の砂もしくは礫の上部砂礫層からなっている。

なお、区内の地盤高を見るならば、都内東部低地帯にあっては最も恵まれた地盤を持ち、しばしば問題となっている地盤沈下は量的に微少であり、江東方面とは様相を異にし、沈下によって生ずる各種の支障はない。

地　形

本区の大部分は、江戸時代以降の埋め立てによってできたものであるため起伏に乏しく傾斜は非常に緩慢である。

広　が　り		最　端　位　置		土　地　高　低	
				最　高	最　低
東西	約３㎞	東	日本橋浜町三丁目	日本橋本石町三丁目２番 A.P.＋5.8683m	日本橋浜町三丁目45番 A.P.＋1.8308m
		西	銀座八丁目		
南北	約5.5㎞	南	晴海五丁目		
		北	日本橋馬喰町二丁目		

◎A.P.…霊岸島量水標零位（荒川工事基準面）（都土木技術支援・人材育成センター『水準基標測量成果表（基準日・令和５年１月１日）』より）

人　口

夜間人口

都の人口は、昭和37年２月に1,000万人を突破し、令和６年４月１日現在では約1,400万人（住民基本台帳）を数えるに至った。

都心に位置する本区は、日本経済の中心地として繁栄する一方、昭和29年以来人口減少が続き、昭和50年８月に10万人を割り込んだ。

しかし、本区の定住人口回復施策と近年の都心回帰現象との相乗効果により、平成18年４月４日に、昭和50年以来、31年ぶりの10万人台回復を達成した。その後、令和５年１月１日現在の定住人口が174,074人となり、70年ぶりに最大人口を更新し、現在も力強い人口増加が続いている。

昼間人口

本区は夜間人口こそ23区中、千代田区に次いで少ない区であるが、区内の各会社・商店・事務所などに通勤し、区内各学校へ通学してくる人々などを合わせた昼間人口は、令和２年の国勢調査によると約63万人である。

これに、商業・経済の中心地という本区の特徴から、商用・社用・観光などで一時的に入り込む人々を加えると膨大な数になると思われる。

男女別人口および密度　（令和６年１月１日現在　住民基本台帳人口）

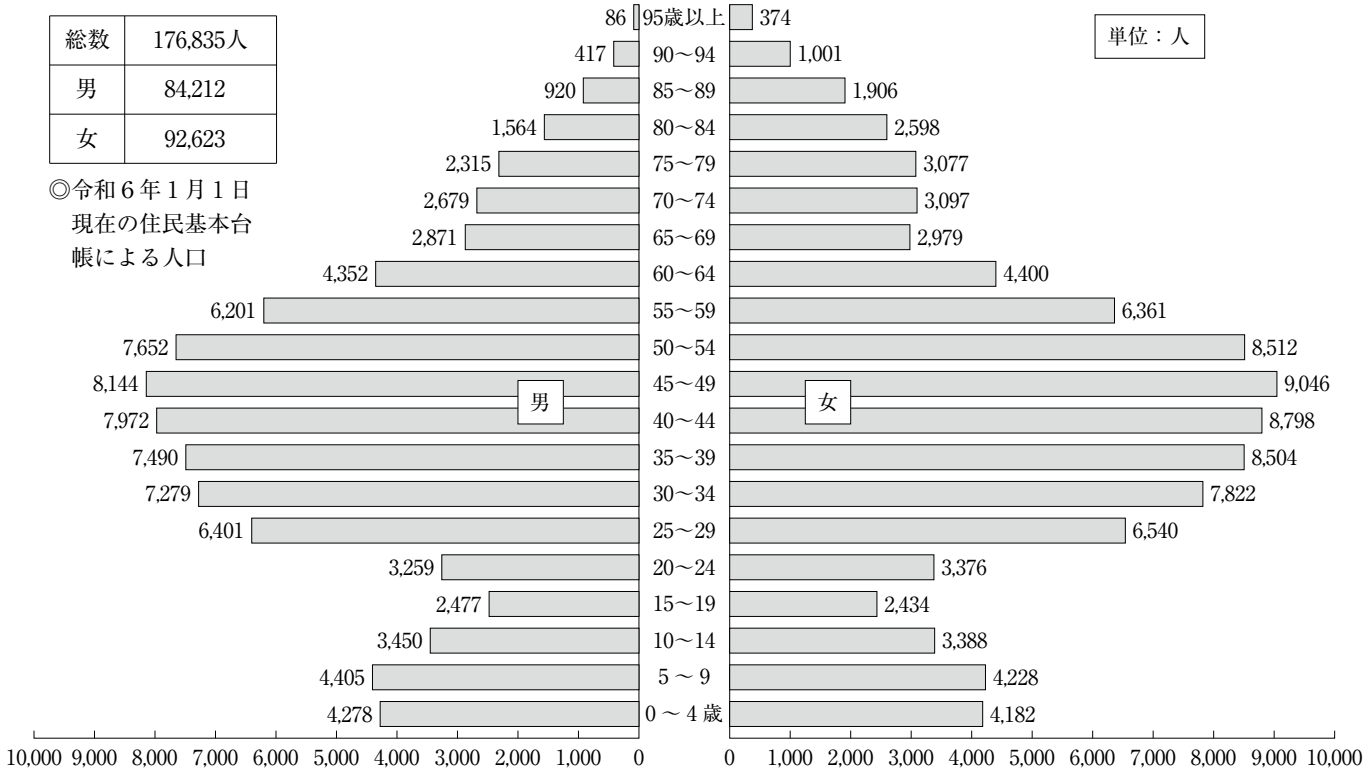
世　帯　数	人　　口			女100人につき男	１世帯当たり人員	人　口　密　度（人／㎢）
	総　数	男	女			
100,917世帯	176,835人	84,212人	92,623人	90.9人	1.75人	17,482（21,367）

◎人口密度の（　　）内は、中央区陸地面積8.276㎢を使用している。

年齢別人口　（令和６年１月１日現在　住民基本台帳人口）

年少人口（０～14歳）			生産年齢人口（15～64歳）			老年人口（65歳以上）		
総　数	男	女	総　数	男	女	総　数	男	女
23,931人	12,133	11,798	127,020人	61,227	65,793	25,884人	10,852	15,032

年齢別人口構成図



国勢調査人口

本区の人口の推移を見ると、大正９年第１回国勢調査で269,812人でありその後の国勢調査人口は減少傾向をたどってはいたが、昭和15年までは20万人台であった。しかし、昭和16年に始まった太平洋戦争による応召、疎開、戦災などのため昭和20年の人口調査では76,220人と戦前の３分の１以下に激減した。

その後復員、疎開からの復帰、戦災復興とともに急速に人口は伸び、昭和30年国勢調査までは増加を続けたが、戦前の人口には到底及ばなかった。そしてこの昭和30年をピークに本区の人口は減少し、昭和50年にはついに10万人を割ったが、平成12年の国勢調査で増加に転じた。

なお、令和２年の国勢調査では、169,179人で、全都総人口14,047,594人の約1.20％、区部総人口9,733,276人の約1.74％となっている。

人口および世帯数の推移　（国勢調査および人口調査による）

年　次	人　口	対前回増加数	対前回増加率	世帯数	対前回増加数	対前回増加率（％）	１世帯当たり人員
大正９年	269,812人	—	—	50,959世帯	—	—	5.29人
〃 14年	225,365	△ 44,447人	△ 16.5％	44,883	△ 6,076世帯	△ 11.9％	5.02
昭和５年	239,533	14,168	6.3	43,777	△ 1,106	△ 2.5	5.47
〃 10年	261,205	21,672	9.0	46,597	2,820	6.4	5.61
〃 15年	244,046	△ 17,159	△ 6.6	47,725	1,128	2.4	5.11
※ 〃 19年	188,871	△ 55,175	△ 22.6				
※ 〃 20年	76,220	△ 112,651	△ 59.6				
※ 〃 21年	103,494	27,274	35.8	29,180	△ 18,545	△ 38.9	3.55
〃 22年	139,179	35,685	34.5	36,407	7,227	24.8	3.82
※ 〃 23年	150,436	11,257	8.1				
〃 25年	161,925	11,489	7.6	37,750	1,343	3.7	4.29
〃 30年	171,316	9,391	5.8	34,472	△ 3,278	△ 8.7	4.97
〃 35年	161,299	△ 10,017	△ 5.8	33,171	△ 1,301	△ 3.8	4.86
〃 40年	128,017	△ 33,282	△ 20.6	29,569	△ 3,602	△ 10.9	4.33
〃 45年	103,850	△ 24,167	△ 18.9	27,033	△ 2,536	△ 8.6	3.84
〃 50年	90,097	△ 13,753	△ 13.2	27,283	250	0.9	3.30
〃 55年	82,700	△ 7,397	△ 8.2	31,459	4,176	15.3	2.63
〃 60年	79,973	△ 2,727	△ 3.3	31,567	108	0.3	2.53
平成２年	68,041	△ 11,932	△ 14.9	28,279	△ 3,288	△ 10.4	2.41
〃 ７年	63,923	△ 4,118	△ 6.1	28,268	△ 11	0.0	2.26
〃 12年	72,526	8,603	13.5	35,783	7,515	26.6	2.03
〃 17年	98,399	25,873	35.7	55,976	20,193	56.4	1.76
〃 22年	122,762	24,363	24.8	67,981	12,005	21.4	1.81
〃 27年	141,183	18,421	15.0	79,272	11,291	16.6	1.78
令和２年	169,179	27,996	19.8	92,533	13,261	16.7	1.83

※は人口調査による。
◎昭和19年、20年、23年は人口調査のみで世帯数は調査せず。

昼間人口および移動人口　（令和２年10月１日現在　国勢調査による）

昼間人口	流入超過人口	流　入　人　口			流　出　人　口		
		総　数	通勤者	通学者	総　数	通勤者	通学者
633,390人	464,211人	513,030人	510,146	2,884	48,819人	44,319	4,500

◎平成27年国勢調査による昼間人口は608,603人
◎国が公表した「不詳補完値」による令和２年国勢調査の昼間人口は771,583人

町丁別世帯数・人口・陸地面積・人口密度

（世帯数、人口は令和６年１月１日現在住民基本台帳による。
昼間人口は令和２年10月１日現在国勢調査による）

地域（町丁名）	世帯数	人口			陸地面積（㎡）	人口密度（人／ha）	昼間人口
		総数	男	女			
中央区	100,917	176,835	84,212	92,623	8,275,858	213.68	633,390
区役所管内	26,699	42,870	20,156	22,714	3,241,913	132.24	288,674
八重洲二丁目	9	11	5	6	91,305	1.20	12,307
京橋	171	227	118	109	226,442	10.02	35,206
一丁目	53	62	27	35	80,191	7.73	11,015
二丁目	61	92	47	45	86,262	10.67	15,335
三丁目	57	73	44	29	59,989	12.17	8,856
銀座	2,454	3,482	1,599	1,883	860,408	40.47	103,745
一丁目	931	1,432	633	799	137,006	104.52	16,779
二丁目	455	649	282	367	88,661	73.20	8,930
三丁目	235	313	138	175	88,249	35.47	14,921
四丁目	135	182	80	102	85,130	21.38	10,438
五丁目	18	26	15	11	101,601	2.56	10,374
六丁目	30	42	23	19	100,287	4.19	10,525
七丁目	178	240	114	126	102,865	23.33	12,382
八丁目	472	598	314	284	156,609	38.18	19,396
新富	1,588	2,250	1,034	1,216	122,254	184.04	8,402
一丁目	938	1,283	583	700	81,049	158.30	4,912
二丁目	650	967	451	516	41,205	234.68	3,490
入船	1,972	2,880	1,346	1,534	93,237	308.89	6,534
一丁目	707	1,072	502	570	34,807	307.98	1,791
二丁目	692	964	460	504	24,736	389.72	1,867
三丁目	573	844	384	460	33,694	250.49	2,876
湊	4,209	7,467	3,541	3,926	139,185	536.48	6,410
一丁目	805	1,321	618	703	52,936	249.55	1,869
二丁目	1,604	3,024	1,493	1,531	37,759	800.87	1,691
三丁目	1,800	3,122	1,430	1,692	48,490	643.84	2,850
明石町	2,052	3,657	1,609	2,048	169,465	215.80	14,289
築地	5,811	9,229	4,230	4,999	770,754	119.74	45,503
一丁目	577	877	409	468	75,230	116.58	6,822
二丁目	803	1,155	549	606	72,106	160.18	6,092
三丁目	609	920	413	507	72,179	127.46	3,356
四丁目	496	658	346	312	77,233	85.20	5,080
五丁目	311	376	107	269	291,391	12.90	16,331
六丁目	1,080	1,860	851	1,009	105,927	175.59	4,217
七丁目	1,935	3,383	1,555	1,828	76,688	441.14	3,605
浜離宮庭園	0	0	0	0	203,866	0.00	38
八丁堀	2,449	3,839	1,869	1,970	240,634	159.54	25,877
一丁目	50	64	34	30	32,750	19.54	3,582
二丁目	741	1,159	567	592	74,946	154.64	10,762
三丁目	956	1,454	735	719	77,307	188.08	5,613
四丁目	702	1,162	533	629	55,631	208.88	5,920

地域（町丁名）	世帯数	人口			陸地面積（㎡）	人口密度（人／ha）	昼間人口
		総数	男	女			
新川	5,984	9,828	4,805	5,023	324,363	302.99	30,363
一丁目	2,228	3,460	1,705	1,755	172,634	200.42	17,908
二丁目	3,756	6,368	3,100	3,268	151,729	419.70	12,455
日本橋特別出張所管内	33,371	54,680	26,021	28,659	2,703,015	202.29	264,020
本石町	49	83	40	43	98,560	8.42	6,256
一丁目	0	0	0	0	17,621	0.00	1,290
二丁目	0	0	0	0	28,206	0.00	1,968
三丁目	4	4	3	1	15,226	2.63	1,530
四丁目	45	79	37	42	37,507	21.06	1,468
室町	168	270	139	131	146,613	18.42	21,477
一丁目	107	173	85	88	59,121	29.26	6,425
二丁目	30	47	25	22	35,393	13.28	9,840
三丁目	3	7	4	3	23,576	2.97	306
四丁目	28	43	25	18	28,523	15.08	4,906
本町	1,162	1,826	900	926	183,633	99.44	22,389
一丁目	185	273	142	131	45,718	59.71	5,088
二丁目	124	215	95	120	35,482	60.59	5,039
三丁目	194	265	140	125	42,328	62.61	6,524
四丁目	659	1,073	523	550	60,105	178.52	5,738
小舟町	627	1,028	508	520	54,999	186.91	5,890
小伝馬町	629	1,046	511	535	77,658	134.69	8,879
大伝馬町	1,057	1,794	880	914	54,116	331.51	6,172
堀留町	2,019	3,074	1,504	1,570	89,768	342.44	10,815
一丁目	909	1,313	660	653	54,743	239.85	6,632
二丁目	1,110	1,761	844	917	35,025	502.78	4,183
富沢町	934	1,600	756	844	58,239	274.73	4,656
人形町	3,184	5,399	2,484	2,915	202,446	266.69	15,382
一丁目	954	1,619	739	880	59,755	270.94	5,366
二丁目	1,542	2,700	1,242	1,458	100,363	269.02	5,721
三丁目	688	1,080	503	577	42,328	255.15	4,295
小網町	845	1,299	645	654	78,013	166.51	9,408
蛎殻町	3,429	5,432	2,497	2,935	177,386	306.22	10,251
一丁目	2,441	3,961	1,833	2,128	103,510	382.67	6,430
二丁目	988	1,471	664	807	73,876	199.12	3,821
箱崎町	2,405	3,863	1,903	1,960	181,266	213.11	16,596
馬喰町	1,786	2,598	1,301	1,297	101,686	255.49	7,798
一丁目	1,065	1,616	821	795	59,558	271.33	4,654
二丁目	721	982	480	502	42,128	233.10	3,144
横山町	842	1,320	720	600	43,294	304.89	3,218
東日本橋	3,721	6,122	2,907	3,215	186,797	327.74	12,108
一丁目	753	1,211	563	648	49,460	244.84	2,991
二丁目	1,570	2,547	1,211	1,336	84,201	302.49	5,002
三丁目	1,398	2,364	1,133	1,231	53,136	444.90	4,115
久松町	429	788	368	420	39,930	197.35	3,129

地域（町丁名）	世帯数	人口			陸地面積（㎡）	人口密度（人／ha）	昼間人口
		総数	男	女			
浜町	7,030	12,323	5,626	6,697	304,976	404.06	16,635
一丁目	1,312	2,266	1,023	1,243	40,654	557.39	2,807
二丁目	2,886	5,089	2,312	2,777	163,461	311.33	7,700
三丁目	2,832	4,968	2,291	2,677	100,861	492.56	6,128
中洲	1,427	2,432	1,101	1,331	40,924	594.27	1,379
八重洲 一丁目	17	30	13	17	84,711	3.54	12,381
日本橋	205	329	176	153	261,045	12.60	45,652
一丁目	52	74	40	34	90,018	8.22	15,543
二丁目	41	69	40	29	94,212	7.32	16,390
三丁目	112	186	96	90	76,815	24.21	13,719
茅場町	865	1,295	646	649	138,697	93.37	16,215
一丁目	28	38	22	16	56,650	6.71	8,389
二丁目	407	584	302	282	52,292	111.68	5,219
三丁目	430	673	322	351	29,755	226.18	2,607
兜町	541	729	396	333	98,258	74.19	7,334
月島特別出張所管内	40,847	79,285	38,035	41,250	2,330,930	340.14	80,695
佃	7,827	15,074	7,085	7,989	282,248	534.07	9,993
一丁目	1,339	2,716	1,302	1,414	45,813	592.84	1,583
二丁目	5,228	10,425	4,858	5,567	191,821	543.48	7,442
三丁目	1,260	1,933	925	1,008	44,614	433.27	968
月島	9,725	16,899	8,028	8,871	372,864	453.22	12,278
一丁目	3,035	5,981	2,833	3,148	96,339	620.83	4,113
二丁目	1,744	3,221	1,541	1,680	67,414	477.79	2,247
三丁目	2,758	4,146	1,999	2,147	112,361	368.99	3,054
四丁目	2,188	3,551	1,655	1,896	96,750	367.03	2,864
勝どき	14,500	28,041	13,472	14,569	450,780	622.06	21,206
一丁目	2,438	4,807	2,299	2,508	76,486	628.48	5,221
二丁目	1,532	2,567	1,258	1,309	64,772	396.31	2,342
三丁目	1,793	3,355	1,584	1,771	76,301	439.71	4,051
四丁目	1,825	2,969	1,508	1,461	63,219	469.64	1,485
五丁目	3,576	7,240	3,445	3,795	99,140	730.28	3,382
六丁目	3,336	7,103	3,378	3,725	70,862	1,002.37	4,725
豊海町	325	490	297	193	170,327	28.77	2,958
晴海	8,470	18,781	9,153	9,628	1,054,711	178.07	34,260
一丁目	1,935	4,147	1,918	2,229	207,067	200.27	23,136
二丁目	2,988	7,278	3,595	3,683	199,315	365.15	5,548
三丁目	2,625	5,411	2,683	2,728	108,748	497.57	3,844
四丁目	86	118	54	64	141,364	8.35	858
五丁目	836	1,827	903	924	398,217	45.88	874

◎人口密度は、陸地面積を使用した。陸地面積は、昭和48年版中央区政年鑑を基に算出した令和３年９月１日現在のものである。
日本橋特別出張所管内の「東日本橋、八重洲一丁目、日本橋」を除く他の町名の「日本橋」冠称は省略した。
昼間人口の数値は推計値である。昼間人口の集計値は按分による小数点以下四捨五入のため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

世帯数と人口の推移

（各年１月１日現在　住民基本台帳による）

年　次	世帯数	世帯当たり人員	人　口	対前年人口増減
	世帯	人	人	人
昭和60（1985）年	38,004	2.33	88,376	△ 360
昭和61（1986）年	37,757	2.31	87,150	△ 1,226
昭和62（1987）年	37,454	2.28	85,299	△ 1,851
昭和63（1988）年	36,767	2.26	82,984	△ 2,315
昭和64（1989）年	35,904	2.24	80,388	△ 2,596
平成２（1990）年	34,959	2.24	78,203	△ 2,185
平成３（1991）年	34,146	2.22	75,951	△ 2,252
平成４（1992）年	34,129	2.21	75,419	△ 532
平成５（1993）年	34,040	2.18	74,268	△ 1,151
平成６（1994）年	33,963	2.16	73,370	△ 898
平成７（1995）年	34,040	2.14	72,794	△ 576
平成８（1996）年	34,299	2.11	72,275	△ 519
平成９（1997）年	34,597	2.08	72,090	△ 185
平成10（1998）年	35,262	2.05	72,387	297
平成11（1999）年	36,427	2.02	73,706	1,319
平成12（2000）年	38,482	1.98	76,325	2,619
平成13（2001）年	40,859	1.95	79,582	3,257
平成14（2002）年	43,160	1.93	83,124	3,542
平成15（2003）年	45,650	1.89	86,358	3,234
平成16（2004）年	48,080	1.86	89,532	3,174
平成17（2005）年	51,740	1.81	93,791	4,259
平成18（2006）年	55,799	1.78	99,078	5,287
平成19（2007）年	58,368	1.75	102,431	3,353
平成20（2008）年	60,498	1.74	105,230	2,799
平成21（2009）年	63,660	1.74	110,702	5,472
平成22（2010）年	65,786	1.73	113,871	3,169
平成23（2011）年	67,351	1.74	116,930	3,059
平成24（2012）年	69,384	1.73	120,297	3,367
平成25（2013）年	74,293	1.73	128,628	8,331
平成26（2014）年	76,455	1.73	132,610	3,982
平成27（2015）年	79,418	1.74	138,088	5,478
平成28（2016）年	82,057	1.74	142,995	4,907
平成29（2017）年	85,381	1.75	149,640	6,645
平成30（2018）年	89,132	1.76	156,823	7,183
平成31（2019）年	91,852	1.77	162,502	5,679
令和２（2020）年	94,807	1.78	168,361	5,859
令和３（2021）年	95,812	1.78	170,583	2,222
令和４（2022）年	96,535	1.78	171,419	836
令和５（2023）年	98,723	1.76	174,074	2,655
令和６（2024）年	100,917	1.75	176,835	2,761